

川辺高同窓会報

退任と就任の挨拶



昨年八月六日の本

部同窓会において、長
年、本校及び本校同窓
会の発展に寄与して
こられた前野政美同
窓会会長が退任され、
新しく大坪憲市氏(昭
和四十一年卒)が選任
されました。

ここで改めて、本校
同窓会のホームページ
の退任と就任の挨拶
を掲載いたします。



前同窓会会長
前 野 政 美

各地区同窓会はもとよ
り川辺の本部同窓会会員
の皆様には御健勝のこと
とお喜び申し上げます。
日頃より同窓会の運営に
は格別なる御支援と御協
力を賜りまして誠にあり
がとうございます。

昨年度までは「さらなる
活性化元年」のキーワード
の下、母校の存亡をかけた
百十周年記念事業に御理
解、御協力していただき、
誠にありがとうございます。

発 行

川辺高校同窓会本部

発 行 所

〒897-0221

南九州市川辺町田部田4150

TEL0993-56-1151

FAX0993-56-1152

県立川辺高等学校

した。残しておきたいも
の、それが明治以来からこ
の川辺にある最高学府の
高校であります。南薩の
地が皆様にとっていつま
でも心の故郷であつて欲
しいと願っております。

さて 私こと、八月本部
同窓会総会をもちまして、
鹿児島県立川辺高等学校
同窓会会長を退任いたし
ました。在任中は公私に
わたり格別の御厚情と御
支援を賜り、衷心より厚く
御礼申し上げます。

なお、後任の同窓会会長
には大坪憲市氏が就任い
たしましたので、今後とも
変わらぬ御芳情を賜りま
すようお願い申し上げます。



同窓会会長
大 坪 憲 市

秋涼の候 各地区同窓
会はもとより川辺の本部
同窓会会員の皆様、ますま
す御清祥のこととお喜び
申し上げます。

八月本部同窓会総会を
もちまして鹿児島県立川

辺高等学校同窓会会長に
選出されました。

前会長の同窓会への熱
き思いを受け継ぎながら、
誠に微力ではございます
が、皆様の御支援を頼りに
して、この重責を全うした
いと念願いたしております
す。今までと同様に、なに
とぞ格別の御厚情と御指
導を賜りますようお願い
申し上げます。



川辺高校発展のため、母校存続のため、絶大なるお力添えを！



同窓会会長

大坪 憲 市

(昭和四十一年卒)

明治三十三年の春、地域住民の熱意で創立され、百十二年の歴史と伝統を誇り、二万数百名を輩出した、鹿児島県第四中、鹿児島県立川辺高等学校。

全国各地、各分野で大活躍なさっていらっしゃる同窓会会員の皆様には、いつも母校の為に、深い思いを賜り、さらに、御支援・御協力をいただき、誠に有難うございます。

私は、平成二十三年八月六日の本部同窓会総会において同窓会会長をお引

き受けいたしました昭和四十一年卒(十八回生)の大坪憲市と申します。

菊野さん(前々会長)、前野さん(前会長)のようにカリスマ性があるわけでもなく、ただ平凡なる一卒業生ではありますが、お引き受けしました以上、全力を挙げて取り組みますので、皆さまの御支援・御協力をなにとぞお願いいたします。

母校は、平成二十四年度の募集数が百六十名(四クラス)に対し、入学者数が百一名とたいへんな危機的状况にあります。この状況を打破するためには、学校側、PTA、同窓会、行政、地域住民が一体となり、川辺高校存続に向け全力を挙げる必要があります。

中学校側へのアピール不足が現況を招いたので

はないかとの反省点から、中学、高校の連絡協議会を開催。また、

PTAでも、中学・高校の話し合いの開催を計画しています。さらに、川辺高校の頑張りを地域住民に理解してもらうために、新聞折り込みなど早急なる対応が求められております。

一方、明るいニュースもいっぱいあります。なごなた部・ESS部の全国大会出場やバスケットボール部、美術部、書道部等の健闘も光っています。また、音楽部も新しい指導者・福田先生をお迎えしました。生徒皆さんの生き生きとした姿にたいへん期待しています。近い将来、日本一を目指す部活動が出てくるものと思います。また、将来必ず役立つITのより高度な分野が学べる同好会や他校には希少なゴルフ同好会を立ち上げたいと思います。

いかにして中学生の目を本校に向けさせるか。また、入学してきた生徒をいかにして鍛えるか。いろんな考えをお聞かせください。

母校・川辺高等学校は、地域に密着した存在感のある学校、地域が必要とする学校です。鹿児島県第

四中学校以来百十二年の歴史と伝統が存続の危機を迎えています。卒業生二万数百名。PTA、行政、地域住民の総力を結集して母校存続に絶大なるお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。



地域・行政・保護者・同窓会が連携協力して、母校の振興・活性化を図るために組織された川辺高等学校活性化協議会総会(7/17実施)の様子

歴史を繋ぐ活性化を目指して



校長 宮園秀昭(昭和46年卒)

れ、全校生徒三百四十一名と教職員四十名からなる川辺高校の全陣容が揃い、新年度をスタートしました。

ついでですが、国公立大学では広島大学をはじめ、昨年より三名多い二十九名の合格者(内浪人三人)を出しました。また、法政大学や青山学院大学をはじめ、関東の私大にも複数合格しました。そのほか、医療系専門学校や各種専門学校にも多くの合格者を出しています。本校に入った生徒たちは三年間で力を付け、目標に向けてチャレンジしていきま

ました。書道部は高円宮杯日本武道館書写書道大覧覧会で審査委員長奨励賞・日本武道館賞受賞、全日本高校大学書道展書道展賞受賞、県高校書道展で高文連賞を受賞するなど活躍をしました。また、E S S部が県中学・高校英語大会で宮崎大宮高校に勝つなど活躍、全国大会(金沢)に出場しました。地方

らしい記録を残し、さらに女子バレーボールは全九州総合選手権県予選でもベスト十六進出という結果を残してくれました。なお、インターハイ県予選で男子バスケット・女子バレーボールが二年連続ベスト十六に入りました。どちらもシールド校相手にベスト八を懸けて戦いましたが惜しくも敗れてしまいました。一方伝統の薙刀部は県新人大会で団体・個人ともに優勝、今春

同窓会員の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。日頃から母校活性化のために、「神戈陵教育振興会」事業や開校記念日講演会並びに神戈陵塾講師の派遣をはじめ、物心両面からお喜びすることに對し深く感謝申し上げます。また、今年も川辺高校同窓会総会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

四月恒例の開校記念日講演では、昨年に続いて今年も鹿児島同窓会の協力をいただき、南日本銀行取締役業務監査部長・南日本ファイナンス株式会社代表取締役社長を歴任され、現在鹿児島県貿易アドバイザーの有蘭純一様に講演をお願いいたしました。有蘭様には、「地域金融に生きる」自分の経験から高校生に伝えたいこと」という演題で講演をしていただき、後輩たちに熱く語っていただきました。有蘭様のエールを受けた生徒たちは、様々な角度から自分の今を見つめ直し目標に向ってまた新たな決意をしていました。

さて、今春の進学状況に

部活動この一年では、美術部が昨年高校美術展で高校文化連盟大賞を受賞し、今年度全国高校総合文化祭(富山)に出場を決め

また県薙刀選手権では個人で二年生が優勝、顧問の柗元教諭が五連覇を達成しました。水泳部は一年生が二人入部、今年の県総

学校では正門の桜が満開に咲き誇る中、四月六日に新入式・始業式を挙

百一名の新入生を迎え入

また、今年も川辺高校同窓

また、今年も川辺高校同窓

また、今年も川辺高校同窓

果を出し、九州大会に出場しました。

一方、生徒会活動面では生徒会だより「REVOLUTION」の発行を始め、挨拶運動、中学生一体験入学学校紹介、地域密着型のボランティア活動（川辺二日市、祇園祭、清水磨崖仏祭り、EM団子作りと広瀬川投入）や部活動主体のボランティア活動（吹奏楽団の病院コンサート、小学校運動会・バザーでの演奏活動、家庭クラブ老人ホーム清掃奉仕活動等）に取り組み、地域に期待される、地域が認めてくれる生徒像の具現化に努めてきました。

この他、かわなべ青の俳句大会で六年連続学校賞を、個人では県知事賞を、県高校作文コンクールでは特選を受賞しました。また、英語検定や漢字検定、さらには数学検定などにも多くの生徒がチャレンジ、海外派遣事業、グレードアップゼミにも積極的に応

募参加しています。

これまで、学校は「学びの場」とあるという認識のもと、校章・校訓に込められた生徒像の完成を目指し、「知・徳・体」の調和のとれた人材育成に取り組みてきましたが、生徒たちは、旧制中学以来先輩方が築いてこられた文武両道の精神を脈々と受け継ぎ、躍動しています。

このように生徒たちが頑張っている中で、少子化の影響を受け今春の入学者が定員確保できず自然学級減になってしまったことは残念でありました。なんとか生徒数を確保しなければとの思いで、学校・同窓会・PTAがそれぞれ連携しながら生徒募集に向け取り組んできました。特に同窓会には地域に「来たれ！我が母校・川辺高校へ」の折り込みチラシを入れていただきました。PTAには中学校との情報交換会や夜の学校説明会に取り組んでい

たきました。学校では中学生を惹き付けるように学校案内リーフレットも一新しました。また、昨年度末から市教委に働きかけ中高との連携を密にするために南九州市進路指導連絡協議会を立ち上げてもらいました。生徒会でも、生徒会長候補のほ

とんどが生徒数を増やそう、学校がなくなったら寂しいと訴えるなど、生徒自らが母校愛に燃え、何とかしなければという熱い思いを持っています。

最後になりますが、学校あつての地域、地域になくはならない学校を目指して、母校がさらなる飛躍と発展を遂げられるよう、今年度も同窓会の皆様の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、また川辺同窓会の益々の発展を御祈念申し上げます。

宮崎同窓会

野元 隆志
(昭和51年卒)

第二十四回川辺高校同窓会宮崎県支部総会・親睦会を平成二十四年一月二十二日(日)、宮崎市のエアラインホテルで開催しました。

当日は同窓会本部の大坪憲市新会長、母校より宮園秀昭校長、中尾龍二教諭がご出席くださいまして、川辺高校の現状などをお話しいただきました。

戈陵」を飲みながら大いに盛り上がり、最後に校歌の大合唱にてお開きとなりました。

今回、本部同窓会事務局のご尽力のお陰で、宮崎公立大学生の参加がありました。来年も新たな参加者があることを念じつつ、母校のますますの発展をお祈り申し上げます。

生徒数の減少に歯止めをかけるべく奮闘される様子をお聞きし、私も微力ながら親戚に声を掛けるなどの協力をせねばと感じた次第です。

議事に引き続き親睦会に移り、差し入れていただいた焼酎の「神



東京同窓会

小原 東洋明
(昭和38年卒)

衝撃と危機感が母校への
熱き思いを生む

第三十六回東京同窓会
は、六月二日(土)新宿
ワシントンホテルに於い

て、大坪憲市本部同窓会会
長、宮園秀昭校長、水溜孝
志先生、恩師の野間清光先
生、在京ふるさと会の皆様
をお迎えし、総勢百七十三
名の出席者のもと盛大に

開催されまし
た。



総会に先立
ち四十三年卒
の俳諧師佛淵
健悟氏を講師
に「一茶と連
句文芸の楽し
さ」と題して、
連句の基礎的
な知識、即興
性や緊張感と
いった楽しみ
方を講演して
いただきました。
受講者の
中には必死に
メモをとる姿
も見られ、学
生時代の授業

風景を見ているかのよう
で、その顔には満足感・充
実感が漂っていました。

総会は鯉坂悟朗会長の
母校の厳しい現状報告と
母校へのエールで開会、会
場は衝撃と危機感に包ま
れました。

続いて、大坪本部同窓会
会長、宮園校長先生にご挨拶
をいただき、少子化によ
る新入生減少への危機感

から、一段と魅力ある・特
徴ある学校づくり、母
校・同窓会が一体となって
取り組む必要性を強く訴
えられました。一方で
二人から、在校生の学業と
部活動の両立を目指した
奮闘ぶり、そしてその成果
の一端が披露され、参加者
は文武両道の母校の伝統
が継承されていることに
安堵いたしました。

懇親会は四十四年卒の
皆さんが司会・進行を務め、
二十七年卒の中禮俊則氏
による乾杯の発声で幕を
開けました。

特別講演の講師を選者

に「空」を題材として投句
を募ると、多くの指折る俳
人の出現に会場は和んで
まいりました。

懐かしい「茶碗蒸しの
歌」など合唱が始まり、故
郷から取り寄せた焼酎片
手に、つけあげ・刺身こん
にやくを啄ばむ頃となる
と会場は一気に盛り上が
りました。

年次毎の各テーブルで
は久々の出会いに花が咲
き、母校活性化への熱い思
いが交わされました。

大先輩の皆様が旧制中学
校歌を高らかに歌いあげ
ると、若者も負けまいと新
制高校校歌を歌いあげ、二
十七年卒の君野満明氏の
発声による万歳で懇親会
は最高潮に達しました。

校歌は一体感を醸成す
る不思議な力を持つてい
るようです。衝撃と危機
感で始まった総会・懇親会
も母校への熱き思い・団結
心へと高揚していきまし
た。

三時間半に及ぶ会合も

瞬く間に過ぎ、南谷巨英副
会長の閉会の挨拶で懇親
会は幕を閉じました。

会員総数千二百名余と
言われる東京同窓会もご
協力を頂いている会員は
凡そ四割、総会参加者は二
百名を下回っており、もつ
と多くの会員に参加いた
だけるような魅力ある同
窓会作りが課題となつて
います。

故郷から遠く離れた東
京同窓会は母校への思い
が強く、例年卒業生に記念
品をお送りしています。
また総会・懇親会・幹事会・
評議員会・交流会等のあら
ゆる場で、母校への熱き思
いを語りあっています。
母校活性化の一助になれ
ば幸いです。

母校あつての東京同窓
会、母校のますますの発展
を祈念し、東京同窓会の報
告といたします。

関西同窓会

茶 蘭 義文
(昭和44年卒)

平成二十三年度の関西同窓会は九月二十五日(日)に四十四名の参加者のもと、大阪環状線・弁天町駅近くのホテル大阪ベイタワーにて盛大に開催されました。

今回のご来賓者は宮園秀昭校長先生、大坪憲市本部同窓会会長、前野政美本部同窓会顧問、藏前勇先生、



そして恩師として橋元忠也先生(昭和三十八年から昭和四十三年まで在籍され世界史をご担当)の五名でした。

第一部の総会では、岩屋口会長よりご多忙の中、五名のご来賓のご出席を戴けたことのお礼ならびに創立百十周年の募金活動に協力戴けた関西同窓会メンバーへの感謝の気持ち述べられました。その後、

関西同窓会としての活動報告、会計報告ならびに監査報告が行われました。その他の報告事項として役員の一部交代が紹介されました。事務局長が昭和四十四年卒の茶蘭から昭和四十一年卒の大園早夫さんへ、監査役が昭和二十八年卒の田中徹朗さん

から昭和五十五年卒の向吉悠睦さんへ、それぞれ交代となりました。

第二部の懇親会では、まずご来賓の四名の方からご挨拶を戴きました。宮園校長先生からは、四月の定期人事異動で、出水高校から母校の川辺高校(平成十八年度から二年間教頭でも勤務)へ着任され母校での責任の重さを痛感されているとの話や、今春の大学合格の実績、部活動の成果(なぎなた部、音楽部、テニス部、バレー部の活動の様子)もご紹介戴きました。前野顧問(前会長)からは、百十周年記念事業の募金活動への関西同窓会としての協力に対するお礼ならびに前期で会長職を辞任され過去十年間の関係された皆様方の支えに心から感謝申し上げますとの話がありました。大坪新会長からは南薩地区の少子化傾向の影響を受け、今年度入学生百六十名の定員に対して百二十三名の入学で、四学級維持がきわどい状況であった

との報告がなされました。今後多くの中学生が本校を目指して入学してくれるよう関係部署とも連携をとり働きかけて行きたいので、実現に向けて協力をお願いしますとの話がありました。藏前先生からは、昨年の神戈陵塾後の生徒達の感想文を読み、生徒ながらによく考え将来設計をしたいたとの意気込みが感じられたとの話があり、教師としても社会が求める人材の育成、心豊かな人間性の育成が図れるよう努力していきたいとの決意が述べられました。今回恩師としてお呼びした橋元先生からは、当時大変厳しい指導で有名であった山下巖校長先生のもと新任教師として鍛えられたことなど、当時の川辺高校での思い出話も出されました。橋元先生ご在籍時の当時の卒業生約二十名の出席者の中から、昭和四十年卒の樫根厚子さんと昭和四十三年卒の迫法道さんに代表者として当時の懐かしい思い出話

が出され、会場の皆さんも興味をもつて聞いていただけたようです。恒例の参加者の一言のコーナーでは、昭和二十六年卒の木原康男さんより、定員確保も大切であるが、生徒の質も重要であり、社会人として伸びしろの大きい人材の育成、心豊かな人間性の育成こそ大切であり、保護者が行かせたい学校、生徒が川辺高校を卒業して本当に良かったと言えるような教育をお願いしたいとの貴重な意見もいただきました。その後、来賓の方々から戴いた焼酎やつけあげに舌鼓を打ちながらの懇親会も大いに盛り上がり、宴たけなわの中、集合写真撮影、校歌斉唱を行いました。最後に昭和二十九年卒の松園滋さんの閉会の挨拶で滞りなく会を終了することができました。

最後になりましたが、今後の母校と同窓会のますますのご発展をお祈り申し上げ、同窓会の報告とさせていただきます。

福岡同窓会

事務局長
南谷 洋至
(昭和49年卒)

第二十三回福岡同窓会

報告

秋の年中行事(毎年十月第三土曜日)として、すっかり定着した福岡同窓会が、今年も平成二十三年十月十五日(土)午後二時より、福岡国際ホールにて、盛大に開催されました。

福岡同窓会の最大の特徴は、世代を超えて、気さくに話せる雰囲気が充満し、二次会まで誰も帰ろうとしないことです。

福岡同窓会は、故牧角三郎会長(昭和十二年旧制中学校卒)の下、第一回同窓会として、昭和五十五年に産声をあげ、しばし中断のあと、創立九十周年を機に南谷知成会長(昭和三十六年卒)他有志により、平成二年に第二回同窓会が復活し、以後毎年開催され、今年で二十三回目となりましたが、これもひとえに、永見彌瑩先輩(昭和三十四年卒)を中心とした「美人のお姉様たち」の献身的な努力と、司会の名人本田正郎先輩(昭和三十一年卒)

お陰さまで、今年も、我が会のインテリジェンスこと田代利明大先輩(昭和三十一年卒)から、若手のマドンナ西真由子さん(平成十七年卒)とイケメン中崎篤君(平成二十一年卒)まで、同窓生三十四名(男二十五名、女九名)の参加となりました。

本田先輩の名司会のもと、堀内勉副会長(昭和四十二年卒)の開会の辞に始まり、亡師亡友に黙祷を捧げたあと、福岡同窓会と日本医療を支える佐田竹良会長が挨拶され、ご来賓

のご紹介となりました。今年は、本部同窓会から大坪憲市会長、本校から宮園秀昭校長先生、水溜孝志先生のご来賓をお迎えして、わっぜいおもしろとか、そして、がつつい心にしみる貴重なお話を頂戴致しました。

乾杯の音頭は、高校時代のがらっぱ上木原純一郎先輩にお願いさせて戴きました。

あとは、簞がはずれたように一気に会は、ワイルドにブレイクしました。今年も、参加者全員から一分間「あいやらこいやらの近況報告」、校歌、応援歌の大合唱やらで、声がかかるまで絶叫しました。とくに川元光郎先輩(昭和四十一年卒)の第六応援歌の引っ張りは凄かったです。

今年は、鹿児島から畠野英之君・恒吉学君(昭和四十九年卒)が、飛び入り参加し、会を盛り上げて戴きました。

最後は、堀内副会長の閉

会の辞で、本会を締め、二次会は、恒例のもつ鍋屋でぎゅうぎゅう詰めになって、それぞれに、夜が更けて行きました。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

川辺高等学校万歳！
万歳！万歳！



鹿児島同窓会

事務局長
寺師 慶志
(昭和41年卒)

「母校存続の危機」 大坪会長、切々と訴え

鹿児島同窓会の平成二十四年度「神戈陵のつどい」(総会・懇親会)は七月二十八日(土)、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開き、七十人が出席しました。

来賓として川辺高校同窓会長の大坪憲市さん(昭和四十一年卒)、川辺高校の宮園秀昭校長、橋口浩二郎教頭、中尾龍二教諭、水溜義彦教諭がかけつけました。

総会は冒頭、亡師亡友へ黙とう。

有蘭純一さん(四十一年卒)が開会あいさつ。「総会の参加者が年々少なくなっている。やはりわれわれOBが母校を思い、同窓会にも積極的に参加して母校を盛り上げること

が、これからの同窓会活動に必要なことだ。来年は、参加者がこの会場に入りきれないくらいになってほしい」と呼びかけた。

主催者の椎原耕・鹿児島同窓会長(二十六年卒)は「ことしはちよつとさびしい気がするが、高校や川辺町からたくさん参加していただいた。健康上、役職の関係で出席できない方も多い。短い時間ですが大いに楽しんでほしい」と述べた。

来賓祝辞として、大坪憲市会長は「川辺高校を深く思い、川辺のために一生懸命考えてくださる方々の集まりで大変うれしい」と前置き。母校の存続問題になりかねない入学希望者数の激減の実態について次のように述べた。

「昨年夏、同窓会長を引き受けした。まさかこ

んなに大変な状況にあるとは思ひもしなかった。大変も大変：ここ何年間のうちに存続が危ぶまれる状況にある」

「四クラス一六〇人の公募に対し、一昨年は一二五名、昨年は一〇一名と二年連続で大きく落ち込み、極端に言うところ三クラスでもおかしくない。ことしは二、五クラスだ」

「南九州市に三高校あるが、地元の子どもの六十%は市外に流れている。地元は六十%残ってくればなんとか維持・存続させられる。母校のすばらしさを知ってもらうために、中高連絡協議会を設置した」

「野球、なぎなた、ESSなど部活の活躍をバネにしてこの困難を乗り越つていきたい」

気持ちのこもった熱いあいさつに割れんばかりの拍手が送られた。

宮園秀昭校長(四十六年卒)が学校の現況を報告。

事務局から会務・決算報告。監事の黒松武蔵さん(三十八年卒)が「適正に処理されている」旨、監査報告をした。

引き続きの懇親会では山下明世さん(四十一年卒)が乾杯を力強く発声。舞台では、三味線演奏家・

藤本秀龍、ローカル歌手・大津ひろこが「薩摩音頭」など演奏、歌声を披露した。稲森幸一さん(四十一年卒)の指揮で校歌斉唱。県議会議員の柳誠子さん(二期目、五十四年卒)が閉会のことばを述べた。



川 辺 同 窓 会

福島 哲郎
(平成元年卒)



川辺高校同窓会総会が、平成二十三年八月六日に「ひろせ」で盛大に開催されました。今年の幹事は、男性が平成元年の卒業生、女性も平成十年の卒業生が担当幹事となり準備等を行ってきました。当日は、九十人余りの同窓生が参加のもと、オープニング

に川辺高校音楽部吹奏楽団による曲目「ふるさと」の演奏で始まり、時代劇メドレー、校歌メドレーなどの演奏を懐かしく聴いていました。演奏終了後、総会が開会され、前野政美同窓会会長、宮園秀昭校長の挨拶のあと、平成二十二年度の会務報告、会計決算・

監査報告、平成二十三年度活動計画案、予算案が審議され、全て承認されました。また、役員

改選においては、前野会長が勇退され、大坪憲市氏に交代することが承認され総会を閉じました。

引き続き懇親会が川原守和代表幹事の挨拶のあと、椎原鹿児

島同窓会会長の乾杯の音頭で始まりました。久しぶりに再会した同級生や先輩方との思い出話に花を咲かせて会が盛り上がる中、サウンドメイツによるジャズ演奏が行われ、更に会を盛り上げていただきました。しばらく歓談

後に参加者全員で旧制川辺中学校歌、川辺高等学校校歌を斉唱した後、川辺高校の今後の更なる発展を祈念して参加者全員で万歳三唱をしました。最後に来年の幹事を代表して有蘭琢也氏が、同窓生皆さんとの来年再会できることを祈念しての挨拶で同窓会が閉じられました。

なお、前野前会長におかれましては、長年川辺高校の同窓会会長としてご苦勞いただき大変感謝申し上げます。今後は、大坪新会長のもと更なる同窓会の発展を願います。最後に、川辺高校及び同窓生の皆様の更なる発展をご祈念申し上げます。

南九州市職員神戈陵会

書記
内原 広行
(昭和55年卒)

第三十二回南九州市職員神戈陵会総会を、本年五月二十三日に川辺町の「ひろせ」で開催しました。

開会に先立ち、楠元会長が、本会員の現況と課題及び川辺高校の新入生減少対策について挨拶。来賓の川辺高校同窓会副会長の森田剛さんも、生徒数が減少する川辺高校が県教委の高校再編の波にのまれ、存続の危機を絶対食い止めなければならないと熱く挨拶されました。また、総会後の懇親会には、橋口教頭先生をはじめ四名の先生方にも参加を頂き、懇談のほか、高校の現状を詳しく聞ける場となり、小・中学生を持つ会員にとってはいい機会となったのではと感じました。今回の総会を終え、私は次のようなことを考えました。

本県の教育の基本目標は「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」となっています。一方、本市の総合計画の基本理念は「自然豊かで創造と活力に満ちくらしといのちが輝く」ところ「やすらぐまち」となっており、その政策の一つに「心豊かさと創造力を育む教育・文化のまちづくり」と掲げています。表現的には若干異なりますが、目的は、郷土愛を養い、これからの社会づくりに貢献できる人づくりです。それならば、市役所は職員研修の一環として、人に教える（職員を育てる）ことを高校で研修し、生徒は市役所で社会人の即戦力の準備としてのスキルを身に付ける研修はできないものだろうか。また、これに大学を加えてトライアングルの刺激を受

け合いながら自己実現と人づくりができたならば、理想的な教育の構図が描け、魅力ある高校となるのではと感ずることでした。

最後に、川辺高等学校の発展を祈念し、南九州市職員神戈陵会総会の報告を終わります。

南さつま地区神戈陵会

幹事

中馬 悟

(昭53年卒)

南さつま地区神戈陵会においては、平成二十四年度総会を七月十四日(土)午後六時三十分より、毎年恒例の会場である昭和三十一年卒業生の今村勝徳氏の経営するレストランブルドッグで開催しました。

当日は、新しく会長に就任された大坪憲市同窓会長・宮園秀昭校長先生と入村幸宏事務長先生・水溜孝志先生の四名のご来賓を迎え、会員出席者十七名の計二十一名が集まりました。今年度は、昨年参加いただいた旧制川辺中学校卒業の三名の大先輩が体調不良にて参加できず残念でありました。第一部

全体会が中尾良嗣副会長の開会のことばに始まり、本会の上東書三会長より、出席者への御礼と会の盛衰を述べた後、本部同窓会の大坪憲市会長から、新会長としての就任あいさつがあり、前野前会長の功績が大きく会長としての重責を感じているが、前会長の意志を引き継ぎ、精一杯活動するので、皆さんの理解と協力をお願いしたいと熱く話された。

次に、宮園秀昭校長先生より、大坪

会長の話の中であったが、生徒数が危機的状況である。卒業生の皆様にも支援を頂きたいとのお願いがありました。また、全国高校野球選手権鹿児島大会において、野球部が久々に一回戦突破を成し遂げたとの報告を受け、全員で喜び、二回戦に期待しました。全体会が終わり、懇親会の開宴のあいさつを昭和四十八年卒業の西浩二

事務局長が行い、乾杯を昭和三十一年卒業の坂下勝昭先輩の発声で最高潮に達し、それぞれが母校の思い出を語り合い、あつという間に時間が過ぎ、万歳三

昭和四十二年卒 川辺高校同窓会

長野 守雄

平成二十三年八月二十日(土)昭和四十二年川辺

設営や照明の準備を積極的にやってくれた。

高校卒同窓会がこの二、三日雨天模様の続いている中で実施された。外でのバーベキューにするか室内でのメニュー変更にするかということ、前日川原会長・西(正)副会長は迷ったが、外でのバーベキューを選択した。当日、十五時ごろまでは雨がポツポツと降っていた。十四時ぐらいからは川辺の実行委員の皆さんが買い出しやバーベキューの周りの外回りの準備をしてくれた。特に、有村君はバーベキューを実施する場所の上にテントの

集合時間の十七時三十分ごろになると懐かしい顔が集まりだした。わやだいやったけ? あん彼女はだいやったけ? とあちこちでささやき合いが始まった。そのころになると上空は曇り空ながら雨はほぼ上がっていた。我々四十二年卒の情熱が雨を吹き飛ばしてしまっただ。皆の首に名札が掛けられた。名札のフォルダーは松村君が川辺町商工会から借りてくれた。そこでまずは、全員による記念写真を撮影した。さあ、いよいよ十八時に





近づき長野が準備したい
ろんなグッズの入っている
封筒を皆に配った。封
筒の中は、①川辺高校だ
り「川辺高校同窓会報・学
校概況説明／学校便り・川
辺高校パンフレット・川辺
高校の先生が準備してく
れたしおり（since1900）」、
②長野より「卒業アルバム
をスキャンした冊子・入戸
溶結凝灰岩に“封印”さ
れた日食（清水磨崖仏に関
する鶴丸高校の先生の論
文）、名前と月日と場所入

りのしおり、そして今回は
高校三年生の歌とそこに
個々の高校時代の写真を
入れてラミネートしたも
の、出席者名簿と会計報告
アンケート」が各自毎に入
っている。特に今回は皆
さんに、高校三年生の歌と
そこに個々の高校時代の
写真を入れてラミネート
が喜んでもらえたようだ
であった。

十八時、西（正）君の司
会の下、まず同窓生・恩師
そして三月の東北地震津
波の災害に合われ
た人たちも含めて、
三十秒間の全員黙
祷を実施した。川
原会長による挨拶
があり、上野（紀）
君が乾杯の音頭を
取った。さあ、いよ
いよ、生ビールが
のどを潤しバー
ベークューが開始
された。児玉君の
紹介でかきうちの
おいしい肉があち
こちでジュージ

ユーいだった。しばら
くは皆さん生ビールと肉
に舌づづみを打ちながら
至福の一時を過ごしてい
た。

腹も一段落するころは
周りも真つ暗になった。
そこで司会を西（正）君よ
り長野がバトンタッチし
た。長野は、今回出席者全
員に近況報告や今取り組
んでいること等をお願い
した。皆さんが元気でい
ろいろなことに取り組ん
でいる様子が分かり、自分
もまだまだやらねばなら
ないことが皆さん沸々と
わいてきたようであった。
女性の七名に対しては男
性の皆さん執拗に食い下
がり質問攻めにしていた。
やはり同窓会では女性の
力は大である。最後に長
野は星の最終講座をしよ
うと思っていました、残
念ながら夜空は真つ暗闇
であった。

二十一時、中締めに入っ
た。次期の同窓会につい
て会が盛り上がった。平
峯会長の下、まとめ
役（連絡係）は一組
上野（紀）、二組西
（正）、三組坪内、四
組松清、そして五組
諏訪と決定した。下
野（堀内）君が新校
歌と旧校歌を歌おう
と言い、皆高らかに
歌い清水磨崖仏に響
き渡った。そして、
長野は高校三年生を
スキャンファイルを見
ながら歌おうと提
案した。皆この提案に賛
成し、いろいろな思いを胸
に高校三年生を歌い上げ
た。いよいよ締めは平峯
次期会長が「次回もたくさ
んの人たちを集め、またた
くさん楽しく飲みましょ
う。次回は各自が一人以
上を勧誘してきてほし
い。」と述べた。

女性を含め半分近くが
帰った後、何人かが残りま
だまだ話したりないこと
や飲み足りない所を夜遅
くまで補った。二棟の口
ッジ（二十名宿泊可能）へ
の最終の宿泊は結局八名
であった。これなら申し
込みが一棟でよかったこ
とになる。夜空には夏の
大三角形がや々と現れて
いた。さすがに星空日本
一の町である。谷川のせ
せらぎの音を聞きながら
二十四時に就寝した。翌
朝六時ごろ、肌寒の中皆さ
ん起きてきて、最後にサン
ドイッチと巻きずしとお
茶で朝食を済ませた後、各
自家へと帰宅していった。
皆さんお疲れ様でした。



部活動報告

【バドミントン部】

主将 前田圭介

松田詩織

私たち川辺高校バドミントン部は男子十二名、女子二十八名の計四十名で活動しています。練習場所は本校体育館と諏訪体育館で毎日練習に励んでいます。

先日、行われた地区大会では、男子団体・ダブルス・シングルス部の全ての部で優勝。女子団体三位、シングルス部の部で優勝を果たしました。高校総体では男女ともに自分たちの持てる力を発揮しましたが、男子は二回戦敗退、女子三回戦敗退でベスト十六でした。

練習では、先生がお忙しくていらつしやらない日が多



かったですが、全員で限られた練習時間の中、集中して取り組むことを心掛けてきました。一人ひとりの抱えているプレーの課題も違う中で、全員の意見を聞きながら、練習メニューを組んで工夫をして練習をしています。現在、男子は三年生だけの十二名で活動しており、後輩がいません。三年生の男子が卒業してしまえば、男子部員はいなくなってしまうのですが、またいつの日か後輩が入部してきて、私

ちの耳に届くような結果を残してくれることを願っています。

最後に金銭面や健康面で支えて頂いている保護者、指導をしていただいている先生方や先輩、いつも温かく見守って頂いている同窓会の皆様に感謝を申し上げます。これから試合で良い結果が残せるように毎日の練習に励んでいきたいと思っています。応援を宜しくお願いします。

【水泳部】

一年 三宅 真生

同窓会の皆様、いつも応援ありがとうございます。川辺高校水泳部は、今、

私と、鎌田奈津季さんの一年生二人で活動し、いろいろな大会に出場しています。今年の大会では、五月の春季大会、六月の県総に出場しました。これから

会への出場権を獲得すること、自己ベストを百分の一秒縮めることを目指して、日々ひたすら泳いで、練習に励んでいます。

今年の夏は、七月十四日〜十六日まで宮崎である九州高校総体に出場します。九州管内の強豪チームが集まり、インターハイ

出場をかけた大事な大会です。自己ベストはもちろん、インターハイへの扉を開くことを目指して頑張りたいと思います。どうか応援よろしく願います。

また、九州高校総体に川辺高校から出場することが決まったとき、学校の校門に大きな看板を掲げてくださり、ありがとうございます。

九月の新人戦は、別名「末広杯」と言います。上位三位までと標準タイム



をきった者だけが九州大会に出場できる大会です。個人の目標は、さらに上の大会に出場することです。そして、一番の目標は、四人で泳ぐチームリレーに川辺高校として参加することです。そのためには、もっと部員を増やすことが必要です。そして、川辺高校を盛り上げていきたいなと思います。同窓会の先輩方、今後とも応援よろしく願います。

成功の神戈陵祭

文化祭実行委員長 3年 相良 麻衣

今年のテーマは、「Let's enjoy 12th」クラスを一つに学校を一つに感動を二倍に神戈陵魂とともに」と決めま

あり、とても参考になりました。二年生のバザーでは、唐揚げやドーナツなどの販売があり、浴衣を着たり、川辺町商工会のハッピを着て接客をしていました。書道・美術・家庭の授業で取り組んだ作品を展示した作品は、どれも目を引くものばかりでした。舞台発表では、書道部や音楽部が素晴らしいパフ



演奏に引き込まれました。その他、家庭クラブによる手作りカレーと麦茶の食品バザー、PTAの皆さんによる「母ちゃん食堂」でのラーメン販売もあり、雨の中にも関わらず、行列ができるほど盛況でした。

文化祭の最後は、生徒会の素晴らしい映像とともに、全員合唱でスピッツの「空も飛べる

オーマンスを見せてくれました。

三年生は、パソコンを駆使した手作りの映像やダンス、劇で会場を盛り上げてくれました。

ESS部の発表では、全てのセリフを英語でしゃべるビデオ映像やALTのロブ先生のドラマ



はず」を歌い、心を一つにすることができました。今回の文化祭は、多くの人の支えにより、大成功を収めることができました。これからも感謝の気持ちを川辺高校が一丸となつ

て頑張っていきたいと思っています。

以上で、神戈祭の報告を終わります。



した。百十二周年だったので、テーマの中に、一、一、二という数字を入れました。展示部門では一年生が頑張ってくれました。南九州市の、川辺・知覧・頤娃を詳しく調べたりして、なるほど!!と思うものも



事務局だより

中尾 龍二
(昭52年卒)

平成二十三年度神戈陵 教育振興会奨学生決定の 報告

平成二十三年度「神戈陵教育振興会奨学生」として、三年生の志礼田賢人君と内匠詩織さん、二年生の楠元崇孔君と安藤未知瑠さんと鰐坂史帆さんが決定し、認定書及び奨学金が交付されました。

平成二十四年度のスタート

四月九日(月)、第六十七回入学式が本校体育館で挙行され、新入生百一人を迎え、全校生徒三百四十一人(男子百二十八人、女子二百十三人)で平成二十四年度がスタートしました。

創立記念講演会

四月二十六日(木)、恒例の創立記念講演会が開催されました。今回は、元南日本ファイナンシャル株式会社代表取締役社長の有蘭純一氏(昭和四十一年卒)をお招きし、「地域金融に生きるく自分の経験から、高校生に伝えたいこと」という演題で講演いただきました。

高校・大学時代の思い出をもとに、友人の大切さ、やる気と気持ちの持ちようで人は変われると後輩たちに訴えられました。その後、朝日相互銀行(現

南日本銀行)に入社してからの体験をお話しされ、後輩に望むこととして、①コミュニケーション能力・英語力の習得②深い教養の獲得③人格の練磨④体力の向上⑤インターネットへの適応の五点を強調されました。

最後に、常識にとらわれず自分の信じた道を目指して頑張ってほしいと後輩にエールを送り、講演を締めくくりました。

臨時同窓会役員会・評議員会

入学者の減少による学級減・統廃合の危機に直面している母校の状況を打開するため、五月三十日(水)、臨時の同窓会役員会・評議員会が開かれ、生徒数確保のための活発な意見交換が行われました。

その中で、中高のPTAを主体とした交流促進、川辺高校の良さをアピールした新聞折込チラシの作成など、具体的な行動を取る

ことが決定しました。

六月に入り、十五日(金)には川辺中のPTA・職員との交流会、十九日(火)には知覧文化会館を会場とした学校説明会、三十日(土)には川辺・知覧地区に新聞折込チラシを配布しました。

平成二十四年度神戈陵 教育振興会奨学生決定

七月十九日(木)、三年生を対象にした神戈陵奨学生の選考委員会が開かれ、長野愛佑美さん、鮫島想太君、有村尚子さんの三名に決定し、七月二十七日(金)、校長室で交付式を行いました。

トピックス

○宇宙に興味を持ってもらいたいとの願いから、天文関係の本の寄贈がありました。現在、図書館では、閲覧のためのコーナーを準備中で

す。

○山元巖様(昭和二十七年卒)から「時の流れるままに山元古石・容子歌集」、黒松武藏様(昭和三十八年卒)から「とかげ再び 黒松武藏歌集」のご寄贈がありました。

○今年度赴任された橋口教頭先生手作りの川辺高校公式ブログが話題になっています。ぜひ、アクセスしてご覧ください。



【創立記念講演会】



【奨学金の贈呈式】

橋口教頭先生手作りの川辺高校公式ブログから抜粋します



初めて訪れた私にとっては、感動の一言でした。(辺高生になると、毎年見れるという特典が付いてきます。)と冗談はさておき、写真右側に真新しい看板が設置されています。3月末に行われたなぎなたの全国選抜大会出場を祝う看板です。同窓会の方々に作っていただきました。ありがとうございます。

本校OB大河ドラマに出演



本校OBの仏像彫刻家「向吉悠睦」さんがNHKの大河ドラマ「平清盛」に出演されました。短い時間でしたが、圧倒的な迫力を感じさせてくださいました。

放課後の様子

1年生が入部して、部活動も一段と活気が増えています。その様子をお伝えします。



九州大会・全国大会に向けて

県高校総体が終わり、なぎなた部が九州・全国へと出場します。それを応援するために、同窓会のお力添えで正門横に横断幕が掲げられました。



美術で富山に行く赤崎さん(加世田中出身)に加え、水泳で九州大会に出場する1年生三宅さん(川辺中出身)の看板が、同窓会のお力添えで、先日出来上がりました。

EMダンゴ作り

同窓会長の大坪さんは、「故郷川辺会」の代表もされておられ、広瀬川を綺麗にしたいということで、EMだんごを作って広瀬川に投げ入れようという活動をされています。本校も3年目の協力となります。出来上がった団子は、新聞紙で蓋をして、プール下の場所にねかせておきます。1週間ぐらい経って天気の良い日に一日天日干しをして出来上がりになります。7月16日(月)海の日、広瀬橋付近で団子を投げ入れる予定です。着実に川も綺麗になっているということでした。期末テストの終わった午後でしたが、みんな疲れた顔も見せずに、クラスで協力して作っている姿が印象的でした。



やりました！初戦突破！！！！

ご覧のように、6対2で鹿児島中央高校さんに勝たせていただきました。前半は1点を争う投手戦、後半打線に火が付き、13安打の猛攻で5点を入れての逆転勝ちでした。野球部の皆さん、長い道のりでしたが、最後までよく頑張りました。「一戦必勝！この調子で次もしまっていこう～！」

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
川 辺	1	0	0	0	0	2	2	1	0	6
鹿児島中央	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2

鹿児島商業さんとの熱戦から一夜明け、昨日の模様新聞各紙でも大きく取り上げていただきました。



左側が南日本新聞、右側が朝日新聞です。

川 辺 高 等 学 校 同 窓 会

平成23年度 収支決算書

収入の部

(H. 23. 8. 1~H. 24. 7. 31)

費 目	当初予算額	予 算 現 額	収入済額	増 減	備 考
入 会 金	160,000	160,000	101,000	△ 59,000	1,000円×101人（新入生）
会 費	318,000	318,000	318,000	0	2,000円×159人（卒業生）
総 会 費	400,000	400,000	373,500	△ 26,500	同窓会総会参加費
繰 越 金	4,233,835	4,233,835	4,233,835	0	
雑 収 入	8,165	8,165	107,903	99,738	利息、寄付、返金他
合 計	5,120,000	5,120,000	5,134,238	14,238	

支出の部

費 目	当初予算額	流 用 額	予算現額	支出済額	残 額	備 考
総 会 費	400,000	0	400,000	373,500	26,500	同窓会総会費
需 用 費	120,000	0	120,000	82,850	37,150	会報印刷代他
通 信 費	20,000	13,300	33,300	33,300	0	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000	0	100,000	72,000	28,000	転退職者へ記念品代
旅 費	600,000	0	600,000	421,806	178,194	東京、福岡、他への旅費
負 担 金	250,000	0	250,000	144,000	106,000	各地区同窓会へ
高校振興費	360,000	0	360,000	285,130	74,870	文化祭運営費補助 バス停屋根代金補助他
雑 費	90,000	0	90,000	73,155	16,845	各地への土産代他
繰 出 金	3,100,000	0	3,100,000	0	3,100,000	
予 備 費	80,000	△ 13,300	66,700	0	66,700	
合 計	5,120,000	0	5,120,000	1,485,741	3,634,259	

収入 支 残額
 5,134,238 - 1,485,741 = 3,648,497円 24年度へ繰越

特別基金
 川 辺 高 校 同 窓 会 (鹿児島銀行：定期預金) 3,090,095円 (H24. 7. 9現在)
 川辺高等学校創立百週年記念事業 (ゆうちょ銀行：普通預金) 1,145,657円 (H24. 7. 9現在)
 川辺高等学校創立百週年記念事業 (ゆうちょ銀行：定期貯金) 4,007,507円 (H24. 7. 9現在)
 110周年川辺高校活性化基金管理会 (ゆうちょ銀行：定期貯金) 6,002,080円 (H24. 7. 9現在)

収入の部

平成24年度 予 算 書 (案)

(H. 24. 8. 1~H. 25. 7. 31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	160,000	160,000	0	1,000円×160人（新入生）
会 費	238,000	318,000	△ 80,000	2,000円×119人（卒業生）
総 会 費	400,000	400,000	0	同窓会総会参加費
繰 越 金	3,648,497	4,233,835	△ 585,338	
雑 収 入	3,503	8,165	△ 4,662	利息他
合 計	4,450,000	5,120,000	△ 670,000	

支出の部

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	400,000	400,000	0	同窓会総会
会 議 費	100,000	0	100,000	役員会・評議員会
需 用 費	120,000	120,000	0	会報印刷代他
通 信 費	40,000	20,000	20,000	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職員記念品代他
旅 費	600,000	600,000	0	東京、福岡、他への旅費
負 担 金	250,000	250,000	0	各地区同窓会等への負担金
高校振興費	860,000	360,000	500,000	活性化対策事業補助 500,000円 文化祭運営費補助、宿泊費補助 他
雑 費	90,000	90,000	0	各地への土産代他
繰 出 金	0	3,100,000	△ 3,100,000	
予 備 費	1,890,000	80,000	1,810,000	
合 計	4,450,000	5,120,000	△ 670,000	

[illegible]

